

図 1. GRiD MT のモニタリング領域と 2012 年の解析結果 (東京大学 [課題番号 : 1401])。

MYGH03 ACF EW 1. - 20. Hz

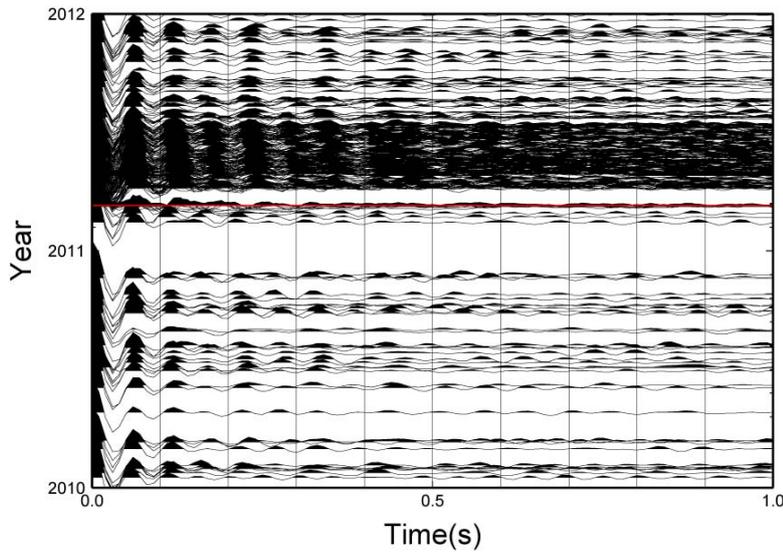


図 2. 近地地震のコーダ波の自己相関により検出された 2011 年東北地方太平洋沖地震に伴う時間変化 (MYGH03 観測点, 東西動成分)。本震 (2011 年 3 月 11 日、図中の赤い横線) 直後に最大で 15% 程度位相が遅れている (東北大学 [課題番号: 1201])。

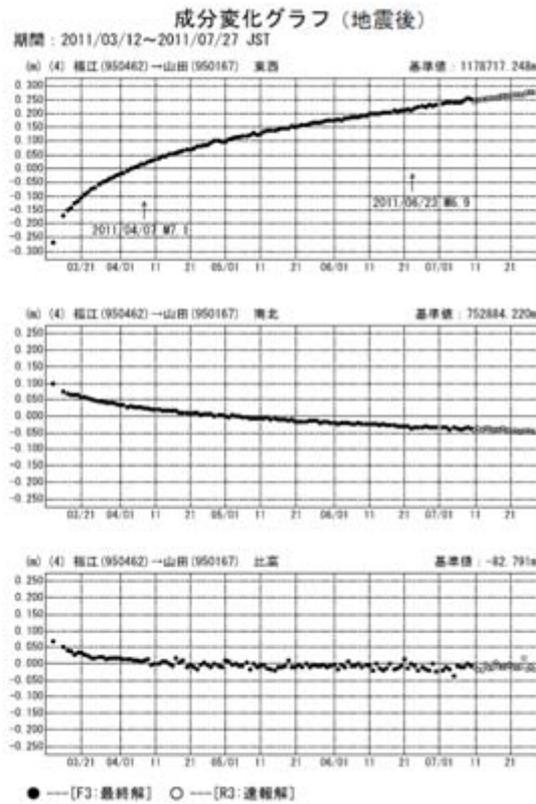
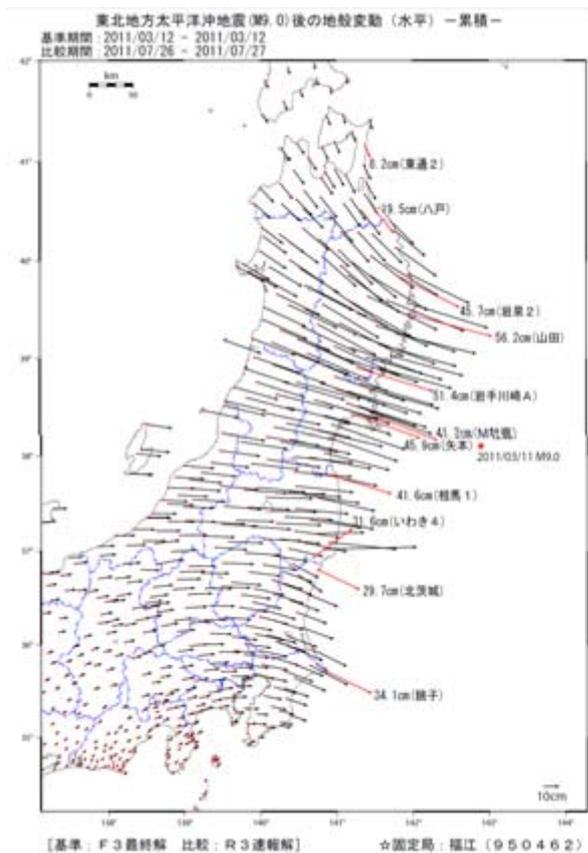


図 3. 東北地方太平洋沖地震後 (3~7 月) の余効変動量。(左): 水平成分、(右): 電子基準点「山田」時系列 (国土地理院 [課題番号: 6001])。

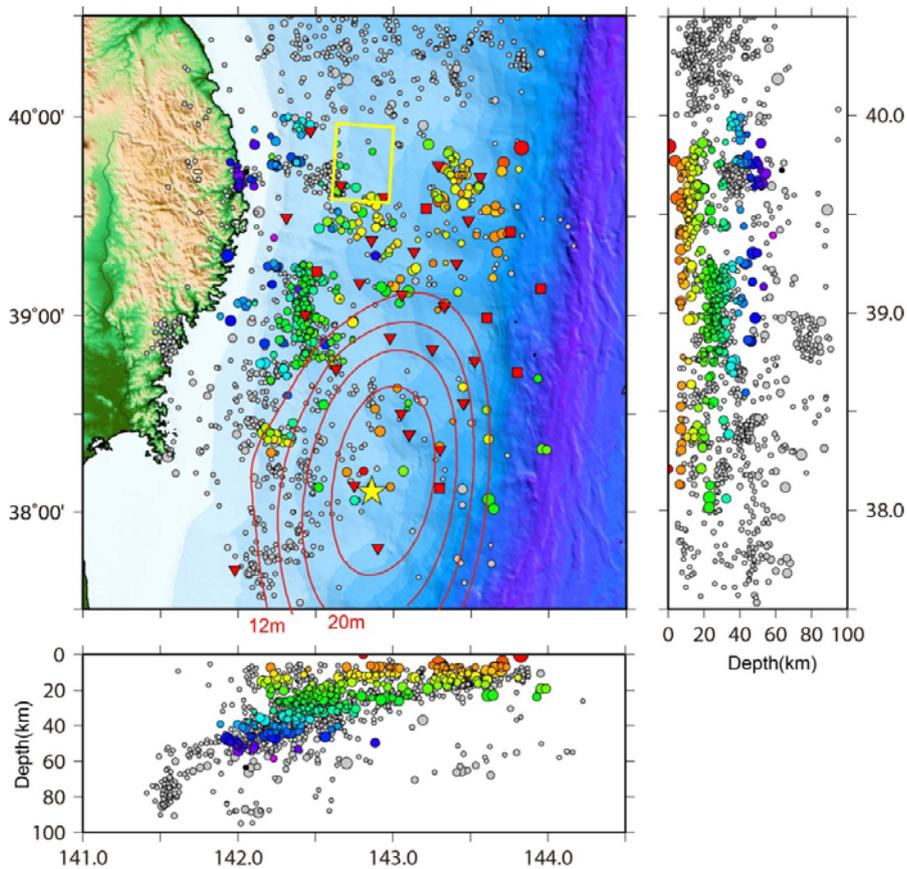


図 4. 余震分布と本震・余震による破壊域との比較。色つき丸は再決定された余震、赤三角・赤四角は海底地震計の位置をそれぞれ示す。赤線は本震による破壊域、黄色四角は余震の破壊域をそれぞれ示す。灰色丸は東北地方太平洋沖地震発生前の地震活動を示す（東京大学 [課題番号：1403]）。

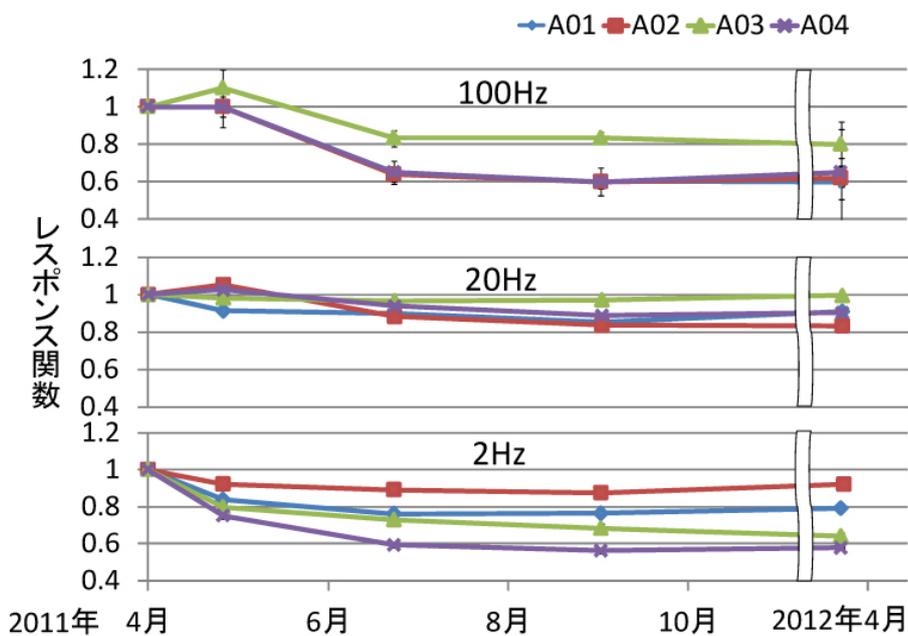


図 5. 阿蘇火口中岳周辺における 2011 年 4 月～2012 年 4 月までのレスポンス関数の時間変化(京都大学 [課題番号：1901])。